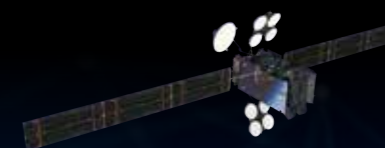


 スカパーJSAT
www.skyperfectjsat.space



 **SKY Perfect JSAT Group**
Company Profile



スカパーJSATグループミッション

Space for your Smile

不安が「安心」にかわる社会へ
不便が「快適」にかわる生活へ
好きが「大好き」にかわる人生へ

ブランドスローガン



地上から宇宙へ広がる空間で、
世界が驚くビジネスを。
見たこともないエンターテインメントを。
今日もこの空にうかぶ、人工衛星たちとともに。



**事業を取り巻く環境の変化をチャンスととらえ、
既存ビジネスの延長線上にとどまらず、成長を加速させてまいります。**

当社グループは、1989年に日本企業として初めて通信衛星を打ち上げて以来、30機以上の衛星を活用してきた宇宙ビジネスのパイオニア企業です。アジア最大の衛星通信事業を担う宇宙事業と日本最大級の有料多チャンネル放送サービス「スカパー！」を擁するメディア事業を両軸に発展してまいりました。

近年は、静止衛星の技術革新、低軌道衛星の新たなビジネスの台頭や動画配信サービスの急速な普及など、事業を取り巻く競争環境は大きく変化しています。この変化をチャンスととらえ、グループミッション「Space for your Smile」のもと、既存ビジネスの延長線上にとどまらない、宇宙事業、メディア事業双方の技術/サービスの開発を進め、Society5.0の実現に貢献していくことを目指します。

宇宙事業では、既存の静止衛星インフラの稼働率向上、特にアジア太平洋を中心とするグローバルエリアや、移動体向けサービスを提供するモバイル分野での着実な成長を実現してまいります。また、2021年からNTTと共同で、従来の静止衛星をベースにした通信インフラだけでなく、ニーズに応じて多様な通信インフラを提供する「宇宙統合コンピューティング・ネットワーク構想」の実現に向けた取り組みを開始し、2022年には合併会社「株式会社Space Compass」を設立しました。今後も、先端技術や新しいアイデアをもつ国内外のパートナーと協業し、「ユニバーサルNTN」、低軌道衛星を用いた「データインテリジェンス」などビジネス領域の裾野を広げ、持続可能な社会の実現に寄与してまいります。

メディア事業では、衛星放送「スカパー！」を提供する放送事業をはじめ、配信、FTTH、メディアソリューションの4つの事業を展開しています。配信領域では、2021年11月に、新たな動画配信サービス「SPOOX」を開始しました。また、CTV（コネクテッドTV）分野への展開を図り、大画面で多様な動画配信サービスを視聴できる環境整備を行うとともに、個人の嗜好や行動のデータを利活用した広告プラットフォームの構築にもパートナーと連携し取り組んでまいります。また、メディアソリューション領域では、国内外の配信サービスを展開する事業者を支援する「メディアHUBクラウド」サービスの提供など、当社グループが保有する有形無形のアセットを活用した事業を展開してまいります。

スカパーJSATグループは、サステナビリティ経営の深化にも取り組んでいます。2021年には「Space for your Smile」をサステナビリティ方針として定めるとともに、9つの重要課題（マテリアリティ）テーマを設定しました。経営資源を活用し、事業ビジョンを実現することで、経済的価値、社会的価値を創り続けていきたいと考えています。引き続き、全社一丸となってお取引先、株主様、地域社会など全てのステークホルダーに向き合いながら、会社の成長、変革に挑戦し、企業価値の向上に努めてまいります。

代表取締役社長 米倉 英一

地上にある人々の生活から宇宙空間までが、 私たちのビジネスフィールドです。

スカパーJSATグループは、人類発展の普遍の原動力となってきた「未知に挑み続ける力」を武器に、宇宙事業とメディア事業を両輪とするハイブリッドな強みを生かし、幅広い事業を展開しています。グループミッション「Space for your Smile」を指針として、当社グループにしか提供できない新たな価値を提供し続けます。

情報サービス

衛星通信サービス

衛星の特長

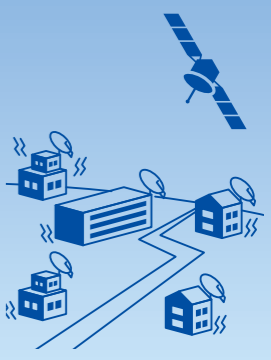
フレキシビリティ

いつでも、どこでもつながる
宇宙空間に位置する通信衛星は、陸・海・空を問わず地球全域を広範囲にカバーしています（広域性）。地上の通信インフラが不十分な国や地域はもちろん、航空・船舶など移動体向け高速通信サービスの提供が可能です。また、多拠点への一斉同時配信（同報性）、報道現場からの中継用回線などの臨時設定にも柔軟に対応できます（回線設定の柔軟性）。



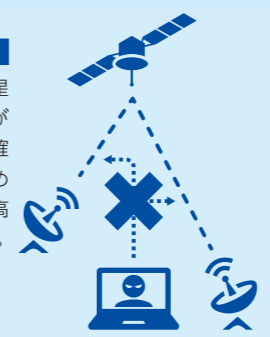
レジリエンス

災害に強い
通信衛星は、地震など自然災害の影響を受けない堅固な通信ネットワークの構築ができます（耐災害性）。そのため、政府・自治体やライフラインを担う企業などさまざまなお客様が、防災用途や地上通信のバックアップ、携帯基地局のバックホール回線利用など多様な用途で衛星通信を利用しています。



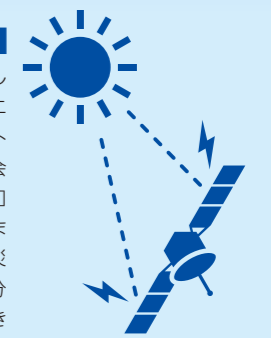
セキュリティ

安全性の高い通信回線
地上系のネットワークに比べて通信衛星を利用した無線通信は不正アクセスが容易でないため、高いセキュリティを確保できます（安全性）。安全保障を含めた国や地域の安心・安全、秘匿性の高い情報伝達に優れた役割を發揮します。



サステナビリティ

持続可能社会の基盤
通信衛星は宇宙で太陽光発電を利用して運用されます。クリーンな再生可能エネルギーを用いた効率的な通信ネットワークの構築により、持続可能な社会の実現に貢献します（持続可能性）。加えて、低軌道衛星から得られるさまざまな地球観測画像やデータの利用は、災害予測や海洋汚染状況の把握などの分野で持続可能な社会に大きく貢献できると期待されています。



衛星放送サービス

有料動画配信サービス

移動体通信サービス

メディアソリューションサービス

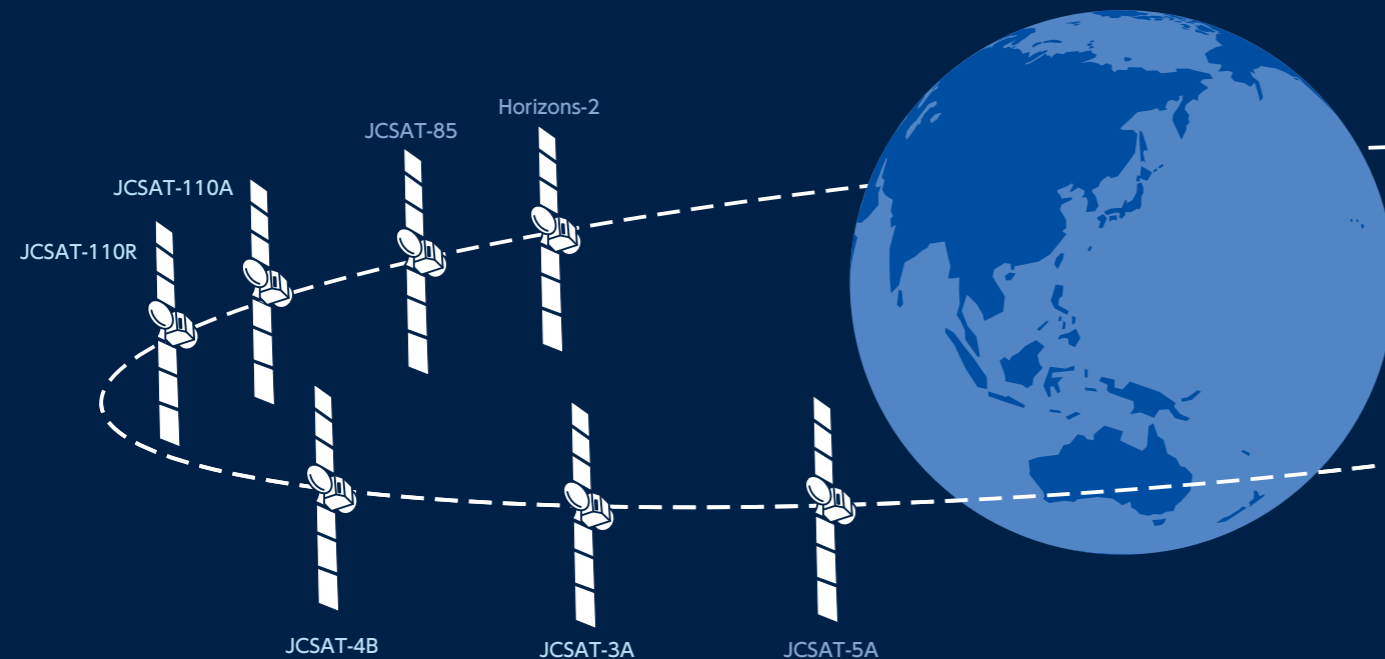
VSAT (超小型地球局) サービス

■ 主に宇宙事業に利用 ■ 主にメディア事業に利用

	JCSAT-110A	JCSAT-110R	JCSAT-4B	JCSAT-3A	JCSAT-5A
軌道位置	東経110度	東経110度	東経124度	東経128度	東経132度
打上日(日本時間)	2016/12/22	2011/8/7	2012/5/16	2006/8/12	2006/4/13
打上ロケット	Ariane5	Ariane5	Ariane5	Ariane5	Zenit-3SL
衛星バス	SSL1300	A2100A	A2100AX	A2100AX	A2100AX
周波数帯域	Ku band	Ku band	Ku band	Ku band C band	Ku band C band S band
主なカバーエリア	● Ku: 日本、インド洋、オセアニア	● Ku: 日本	● Ku: 日本、東南アジア、2つの可動ビーム	● Ku: 日本、可動ビーム ● C: アジア、ハワイ、ロシア	● Ku: 日本 ● C: アジア、ハワイ、ロシア

お客様のニーズに合った軌道位置・衛星仕様を生かし、事業の拡大を図ります。

アジアで最多の通信衛星とインテルサット社とのパートナーシップにより、グローバルな衛星通信サービスを提供しています。

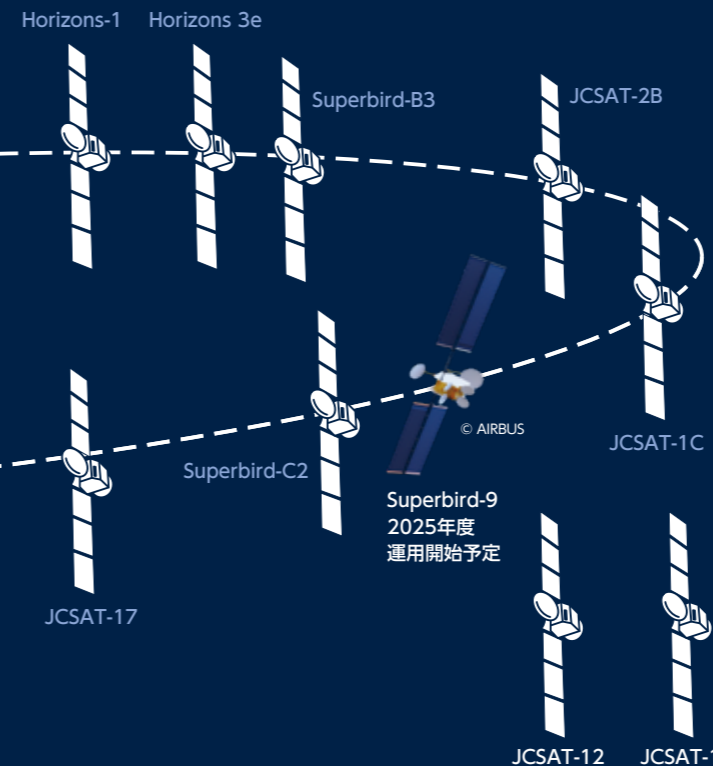


	JCSAT-2B	Superbird-B3	Horizons 3e*1	Horizons-1*1	Horizons-2*1
軌道位置	東経154度	東経162度	東経169度	西経127度	東経85度*4
打上日(日本時間)	2016/5/6	2018/4/6	2018/9/26	2003/10/1	2007/12/22
打上ロケット	Falcon9	Ariane5	Ariane5	Zenit-3SL	Ariane5
衛星バス	SSL1300	DS2000	Boeing 702MP[HTS*3]	Boeing 601HP	STAR-2
周波数帯域	Ku band C band	Ku band Ka band	Ku band C band	Ku band	Ku band
主なカバーエリア	● Ku: 日本、アジア、太平洋 ● C: ロシア、アジア、オセアニア、グローバル	● Ku: 日本、可動ビーム	● Ku: アジア、オセアニア、太平洋 ● C: 日本、オセアニア、ハワイ、アラスカ	● Ku: 北米、ハワイ	

※1 当社とインテルサット社の共同所有衛星 ※2 IS15(インテルサット社所有)の一部を当社が区分所有
※3 HTS: ハイスループット衛星。従来型衛星に比べ伝送容量を大幅に拡張した衛星のこと ※4 2022年10月から西経74度で運用予定

	JCSAT-17	Superbird-C2	JCSAT-1C
軌道位置	東経136度	東経144度	東経150度
打上日(日本時間)	2020/2/19	2008/8/15	2019/12/17
打上ロケット	Ariane5ECA	Ariane5	Falcon9
衛星バス	LM2100	DS2000	Boeing 702[HTS*3]
周波数帯域	S band C band Ku band	Ku band	Ku band Ka band
主なカバーエリア	—	● Ku: 日本、アジア、可動ビーム	● Ku: アジア、太平洋、ロシア

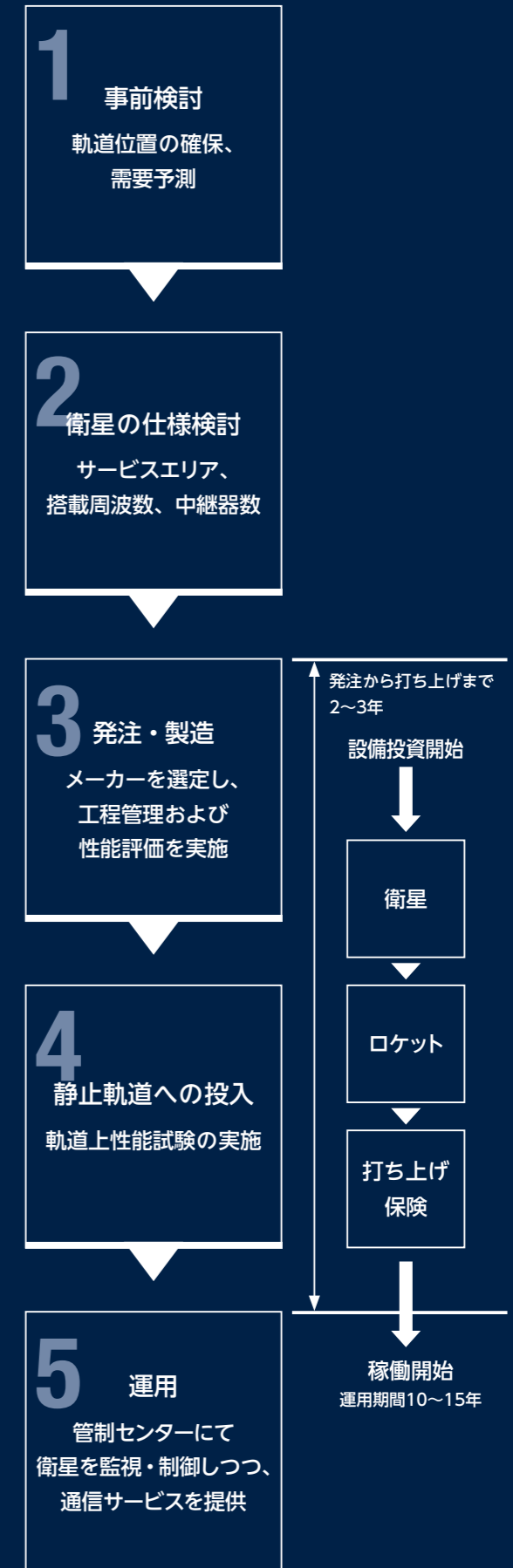
各衛星の詳細情報は、JSAT Satellite Viewerからご覧ください。



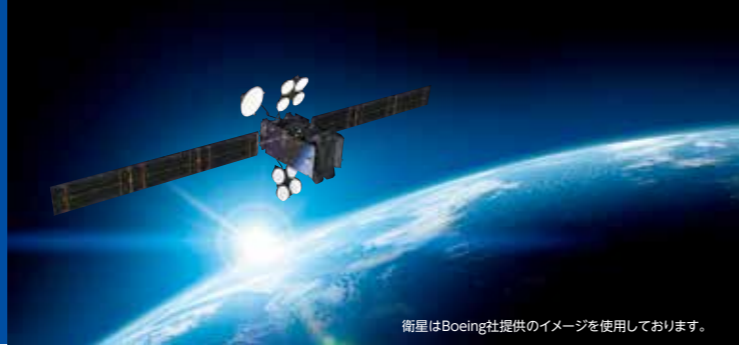
	JCSAT-85*2	JCSAT-12	JCSAT-16
軌道位置	東経85度	—	—
打上日(日本時間)	2009/12/1	2009/8/22	2016/8/14
打上ロケット	Zenit-3SLB	Ariane5	Falcon9
衛星バス	STAR-2	A2100AX	SSL1300
周波数帯域	Ku band	Ku band C band	Ku band Ka band
主なカバーエリア	● Ku: 日本、アジア、インド洋	—	—

2022年6月30日現在

衛星の調達から運用まで



宇宙事業



衛星はBoeing社提供のイメージを使用しております。

宇宙から海洋まであらゆる空間をビジネスフィールドとし、災害時のバックアップ回線や、航空機・船舶向けインターネット回線などさまざまな衛星通信サービスを提供しています。



こちらから詳しい情報をご覧ください

ビジネス領域

国内ビジネス領域

災害に強い衛星通信の特長を生かし、全国自治体や電力・ガスなどライフラインを担う企業に、災害対策・BCPIに適したサービスを提供します。また、現場からの映像伝送や全国一斉配信など、さまざまな用途に利用されています。

グローバルビジネス領域

アジア・オセアニア・中近東・ロシアなどへの衛星回線提供や、インテルサット社とのHorizons共同事業を行っています。新規衛星打ち上げによるカバーエリア拡張、軌道上衛星の効率化や利活用でさらなる拡大を目指します。

移動体ビジネス領域

航空機・船舶向けの通信需要に対し、積極的にビジネスを展開しています。また、インマルサットグループなどとの共同出資によるJSAT MOBILE Communications (株)を通じ、さらなる拡大を目指します。

新規ビジネス領域

● 低軌道衛星向け地上局サービス

低軌道衛星は、技術発展に伴う衛星の小型化や、廉価な衛星打ち上げサービスの拡大を背景に、革新的成長を遂げています。スカパーJSATは、アジア最大の衛星通信事業者として、また30機以上の静止衛星の管制・運用で培った技術力や経験をベースに、低軌道衛星ビジネスに取り組んでいます。

● 情報サービス

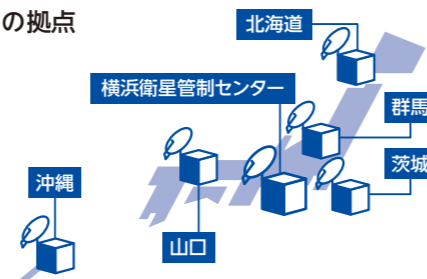
海・地上・空・宇宙からのデータ分析で得られた情報を提供し、さまざまなビジネスシーンでの意思決定をサポートします。お客様の新たな気づきを掘り起こし、当社インフラを利用した情報ソース活用を提案します。

衛星運用・回線運用

スカパーJSATの通信衛星は、衛星管制センターが地上からコントロールします。通信衛星の健康状態を確認するヘルスチェックのほか、軌道制御、姿勢制御、衛星回線の監視などを24時間体制で行います。

横浜衛星管制センターは、当社の主管制局で、主に日本をカバーしている衛星をコントロールし、宇宙事業とメディア事業の両軸を支えています。この衛星管制センターが被災したり、機器の故障が起きても運用が継続できるよう、副局も設けています。

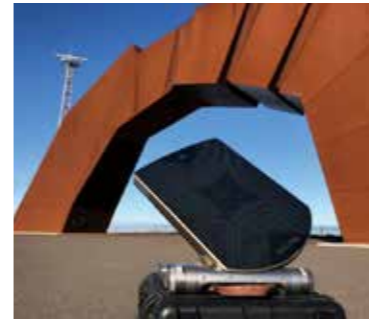
全国の拠点



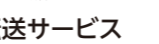
横浜衛星管制センター

宇宙事業サービス紹介

VSAT(超小型地球局)サービス



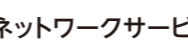
セット使える! IP映像伝送サービス



IP映像伝送サービス

- 利用用途
- 報道取材現場からのリアルタイム映像伝送
 - 報道取材現場のホットスポット化
 - 地上携帯網の伝送路補完 など

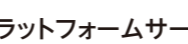
衛星IPネットワークサービス



衛星IPネットワークサービス

- 利用用途
- 企業内拠点間の通信回線バックアップ
 - 災害医療のBCP対策
 - 山間・僻地でのクラウドアクセス (インターネット利用) など

防災プラットフォームサービス



防災プラットフォームサービス

- 利用用途
- インフラ企業内拠点間(本店・発電所・運航管理室など)の重要通信回線バックアップ
 - ガスパイプラインの流量監視・制御 など

ポータル衛星IP通信サービス



ポータル衛星IP通信サービス

- 利用用途
- 報道取材現場からの生中継、映像素材ファイルの伝送、Webアクセス
 - 取材現場と放送局などとの電話連絡回線

配信サービス



衛星マルチキャスト配信サービス



衛星マルチキャスト配信サービス

- 利用用途
- 遠隔教育
 - 社内放送、講義映像配信
 - イベント・ライブ中継 など

緊急地震速報衛星配信サービス



緊急地震速報衛星配信サービス

- 利用用途
- 工場・プラントの自動制御、館内放送による早期避難
 - ビル管理、エレベーター、病院 など

移動体通信サービス



海洋ブロードバンドサービス



海洋ブロードバンドサービス



海洋ブロードバンドサービス

- 利用用途
- 船陸間の業務利用
 - 客船のお客様や船員によるインターネット利用 など

VNOサービス

- 利用用途
- 地上回線が整備されていない場所での通信手段の確保 など



画像提供: ANA

航空機向けサービス

- 利用用途
- 航空機内でのWi-Fi回線利用 など

情報サービス



情報サービス

- 利用用途
- 船舶検知
 - 河川堤防、空港、港湾施設などのインフラ変位モニタリング
 - サプライチェーン可視化
 - 災害状況把握 など

衛星防災情報サービス

- 利用用途
- 災害リスクの予測
 - 被災後の被害状況の把握

地球観測衛星サービス

- 利用用途
- 高頻度撮影かつ低価格での衛星画像の取得
 - B/G/Rデータ、NIR画像データの取得 など



スマホアプリ

- 利用用途
- 雲の形や状態の解析
 - 日射量データ・気象観測データの取得 など

低軌道衛星向け地上局サービス



- 利用用途
- コマンド送信
 - テレメトリデータ受信
 - ミッションデータ受信 など

衛星回線サービス/衛星通信専用サービス

- 利用用途
- 国内・海外向け衛星通信サービス
 - 衛星放送専用サービス(スカパー! など)

衛星運用ソリューションサービス

- 利用用途
- 衛星管制・運用 など



メディア事業



宇宙事業で運用する静止軌道衛星を活用して、1996年10月に現在の「スカパー！」の前身となる「パーフェクトTV！」を開局し、メディア事業はスタートしました。
現在は、放送事業、配信事業、FTTH事業、メディアソリューション事業の4事業へ展開しています。

放送事業



スカパー！

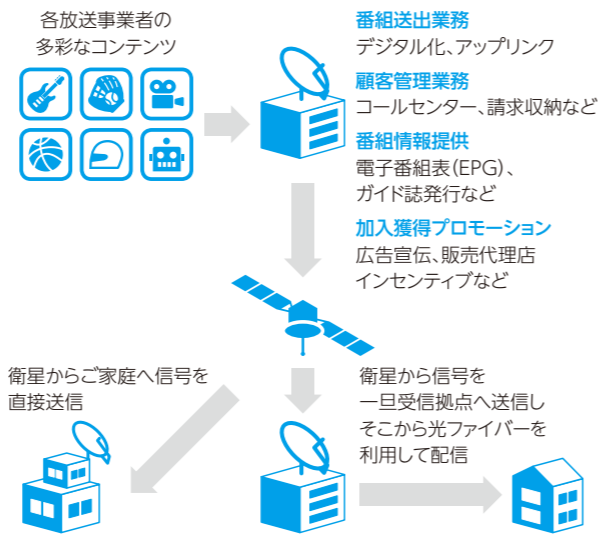
多チャンネルプラットフォームのパイオニア「パーフェクトTV！」サービスのスタートから26年。「スカパー！」は、スカパーJSATが提供する有料多チャンネル放送サービスとして、約300万件のお客様にお楽しみいただいています。ひとりでも多くの方々にお楽しみいただくために、衛星と光ファイバー網を利用した多彩な視聴形態でサービスを展開しています。また、2021年にリニューアルされた「スカパー！番組配信」では、スカパー！放送サービスにご加入中であれば、PC、スマートフォン、タブレットからでも、契約中のチャンネルを無料でご覧いただけます。

ファンマーケティング

コンテンツをお届けするだけでなく、イベント開催、グッズ販売、SNSを活用したコミュニケーションなど、お客様との長期的な関係構築を目指し、ファンに寄り添った新たな体験を提供しています。例えば、プロ野球は公式戦全試合だけでなく、ファーム全12球団の試合配信も実現し、今シーズンも多くのファンにご満足いただいています。プロ野球セットアプリでは、バックグラウンド再生やチャンス通知など、新たな機能が充実しています。

カスタマーセンター運営

加入、変更、ご質問やご要望など、お客様とのさまざまなコミュニケーションをマルチチャネルで担っています。人による高い接客力とAIなど先端テクノロジーの融合で実現した「スマートコンタクトセンター」は、外部機関HDIの調査でも三つ星を獲得しました。さまざまな業種業界のお客様窓口のサポートも積極的に事業化してまいります。



配信事業

SPOOX



多様なコンテンツが、月額見放題から単品購入まで柔軟に視聴できる動画配信サービス「SPOOX」を2021年に開始しました。今後はラインアップを拡充していきます。



ブンデスリーガLIVEアプリ



映像とデータの複合的機能を搭載し、ゲームスタッツやホットゾーンなどがタイムラインに表示され、他の試合でゴールが決まった瞬間、イベントタッチによりシーンチェンジが可能です。新体感の視聴体験をお届けしていきます。

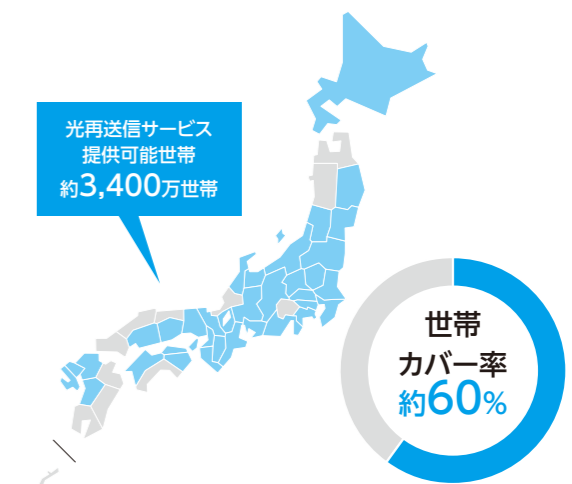


FTTH事業



スカパー！は、FTTHを経由した地デジ・BS再送信サービスも提供しています。本サービスでは、地デジ・BSならびにスカパー！に対応し、アンテナなしでもNHKのBS8Kチャンネルを含む新4K8K衛星放送の全チャンネルがご覧いただけます。全国のサービス提供可能世帯は約3,400万世帯、契約数は257万世帯です*。今後もサービスエリア拡大によるFTTHテレビ再送信サービスの契約増加とともに、光回線経由のスカパー！加入者の拡大を目指します。

*2022年8月末時点



メディアソリューション事業



スカパー東京メディアセンターの放送設備・技術を活用し、OTTサービス向け素材の集積地として、コンテンツプロバイダー、OTTサービス事業者双方に対して、短期間かつ低コストで高い信頼性の配信手段を提供していきます。また、当社が得意としている数多くの映像ソースを必要に応じて分岐する技術や、当社に流通するコンテンツ映像を放送だけでなくインターネットでも配信できる強みを生かし、高品質な放送・配信サービスをサポートしていきます。



スカパー東京メディアセンター

サステナビリティ経営を推進しています。

社会から必要とされ、持続的な成長を続けるサステナビリティ経営の実現を目指しています。

2021年4月、私たちは宇宙事業、メディア事業のそれぞれの特性を踏まえ、事業を通じて取り組むべき9つの重要課題(マテリアリティ)テーマを特定しました。これら9つのテーマに取り組みながら、既存事業の構造改革で利益改善を進めるとともに、共創により新領域での事業推進を図り、経済的価値、社会的価値を創出していきます。



SDGsトピックス

もっと地球を知り、好きになる。子どもたちに寄り添う「海のクレヨン」

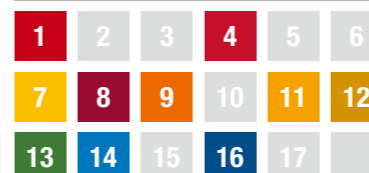
当社グループは衛星画像を活用した“Satellite Crayon Project”を始動し、その第1弾として発売した「海のクレヨン」が「文房具総選挙2022」のノミネート全100商品の中から「大賞」を受賞し、「SDGs文房具」部門でも「第1位」を受賞しました。また、世界三大デザイン賞のひとつである「Red Dot Award: Brands & Communication Design 2022」も受賞するなど、国内外で数々の賞を受賞し、注目を集めています。

「海のクレヨン」は全12色。宇宙から撮影された衛星画像を元に、世界12か所の実際の世界から色を抽出しました。それぞれの色にあえて名前は付けず、海の場所を

示す緯度経度が記されています。地球の「色」の豊かさを多く子どもたちに知ってほしい、実際の地球の「色」を、子どもたちに思うがままに楽しんでほしい、地球に興味をもって好きになってほしい。そんな想いを込めて「海のクレヨン」は誕生しました。なお、売上の一部は、海面上昇の危機に直面しているキリバス共和国に寄付し、気候変動による被害対策に活用していただきます。



1 レジリエントな放送・通信インフラの構築、情報格差の解消



国内外を問わず、地上回線が未整備の地域の情報格差をなくし、レジリエントな社会を構築しています。インフラ系企業のBCP^{※1}利用や、災害発生時の救援、医療、復旧支援にも活用されます。衛星放送や光回線経由の再送信サービスでも、安定した生活インフラ(放送・通信)を提供しています。

4 宇宙環境の改善



宇宙をビジネスフィールドとする企業としての責任を果たすべく、パートナーとの協働により、レーザーを使用した宇宙ごみ除去衛星の設計・開発に取り組んでいます。

2 多様なコンテンツによる生活の豊かさの向上



幅広いジャンルの放送コンテンツをさまざまなデバイスで提供し、多様化する視聴ニーズに応え、生活を豊かにしています。安心してお楽しみいただくための取り組みとして、番組審査や視聴年齢制限を行っています。多様なコンテンツ流通のためのハブ機能の構築にも取り組んでいます。

5 環境や社会に寄与するイノベーションの推進



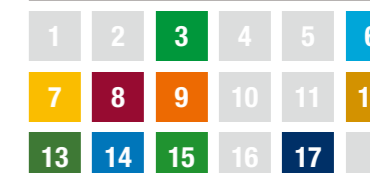
衛星画像データとその他のデータソースを組み合わせて災害状況や建設構造物や水位などの環境変位状況などをモニタリングし、防災・減災、環境保全などに活用しています。また、日本初の衛星デジタル多チャンネルサービスの実現や放送の高度化に取り組んできた実績をもとに、放送のさらなる高度化やアクセシビリティの向上など放送・配信の価値向上に取り組めます。

8 多様な人財の活躍



女性活躍推進・高齢者雇用・障がい者雇用・グローバル人財の育成など、人財の多様性を確保すると同時に、ロケーションにとらわれないリモートワークの環境整備や介護・育児関連などの勤務制度の充実を図るなど、働き方の多様性も整備してまいります。また、さまざまな研修機会の提供や教育研修資格補助制度などによりキャリア形成を支援します。

3 脱炭素社会と循環型経済の実現に向けた環境への寄与



太陽光エネルギーで稼働する衛星通信・衛星放送の利用拡大による地上のエネルギー効率の向上を目指すほか、自社利用およびパートナーへのソリューション提供を通じた再生可能エネルギーの利用拡大や環境に配慮した調達、3R^{※2}の推進により脱炭素社会と循環型経済の実現に寄与します。

6 パートナーシップの促進



パートナー企業との人材交流(出向差出、受入など)や合同研修など、協業・プロジェクト・イニシアチブへの参画などを積極的に行い、新領域への進出を加速します。

9 地域・コミュニティの発展



自社リソースの活用やNGOへの協賛を通じた東南アジアの教育支援、児童・学生の社会科見学受入など次世代教育を支援しています。また自社施設の地域防災拠点としての活用検討など、地域コミュニティの発展への寄与も目指します。番組・CM・放送枠などの当社の特徴を生かした社会貢献も検討を進めます。

※1 BCP:事業継続計画 ※2 3R: Reduce, Reuse, Recycle

スカパーJSATグループのあゆみ

平成元年(1989年)3月に日本初の民間通信衛星JCSAT-1、6月にはSuperbird-Aが打ち上げられ、「平成元年」は「衛星元年」になりました。1996年には通信衛星を利用した日本初のCSデジタル放送「パーフェクTV!」の放送を開始しました。そして2008年、(株)スカパーフェクト・コミュニケーションズ、ジェイサット(株)、宇宙通信(株)が合併し、スカパーJSAT(株)が誕生しました。2018年に策定されたグループミッション「Space for your Smile」のもと、新しい事業領域の開拓に挑戦していきます。

1985

- 市場ゼロからの壮大なチャレンジ。日本初の民間の衛星通信事業の立ち上げ



1989

- 日本初の民間通信衛星「JCSAT-1」の打ち上げ

1992

- 日本初の受託衛星放送サービス(CSアナログ放送)の開始

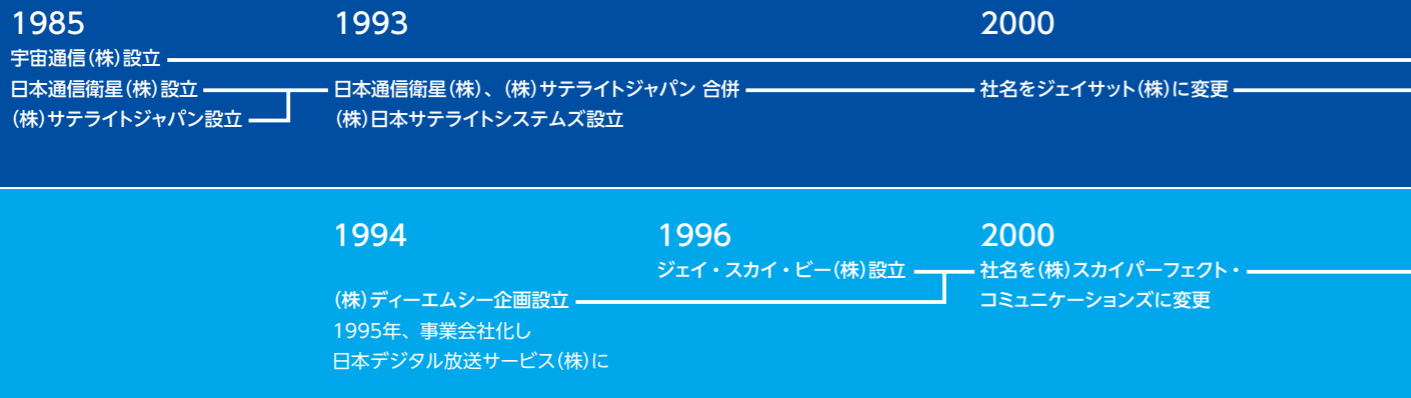
1995

- 日本初の衛星デジタル多チャンネル放送用通信衛星「JCSAT-3」の打ち上げ

2003

- PanAmSat Corporation(現Intelsat社)との共同衛星「Horizons-1」を北米上空に打ち上げ。米国でサービス開始

宇宙事業



メディア事業



1996

- 日本初のCSデジタル放送「パーフェクTV!」本放送開始



2002

- 「スカパー!HD」サービス開始
- 加入者が300万件を突破
- 110度CSデジタル放送サービス「スカパー!HD」本放送開始
- 日韓共催「2002FIFAワールドカップ™」の全64試合を10チャンネルで放送

2004

- 「スカパー!」対応光ファイバーTV OPCAS(現スカパー!プレミアムサービス光)サービス開始

2006

- Jリーグ(J1/J2)CS独占放送権取得

2018

- 「スカパー!HD」サービス開始



- 2010**
 - 海洋ブロードバンドサービス「OceanBB」提供開始
- 2016**
 - 航空機向けWi-Fi回線提供開始
 - Planet社の高頻度衛星画像サービスの提供を開始

- 2017**
 - Orbital Insight社の衛星画像解析データの提供開始
 - 低軌道衛星向け地上局サービス開始
- 2018**
 - 当社グループ初のHigh Throughput Satellite(HTS)衛星「Horizons 3e」を打ち上げ

2019

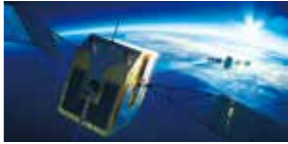
- 情報サービス「Spatio-i」始動



- HTS衛星2機目となる「JCSAT-1C」を打ち上げ

2020

- 宇宙ごみ除去システム衛星の設計・開発に着手



- 電力中央研究所と「ハイブリッド型太陽光発電出力予測システム」の共同開発に着手

- 2021**
- 「衛星防災情報サービス」提供開始
 - 「JSATMarine」サービス開始
 - QPS研究所と小型SAR衛星を活用した事業拡大に向け、資本業務提携



2022

- 宇宙統合コンピューティングネットワーク構想実現に向けて、NTTと合併会社「Space Compass」設立



2008

アジア最大の衛星通信会社スカパーJSATの誕生
(株)スカパーフェクト・コミュニケーションズとジェイサット(株)と宇宙通信(株)が合併し、スカパーJSAT(株)が発足(10月1日)
※2008年、(株)スカパーJSATホールディングスに社名変更


2011

- 新BSデジタル放送「BSスカパー!」開局
- 「スカパー!オンデマンド」サービスの提供を開始

スカパー!

2018

- 新4K8K衛星放送の開始。スカパー!に9つの4Kチャンネル誕生。光回線でも視聴可能に
- 「スカパー!基本プラン」スタート。1台分の料金でテレビ3台まで追加料金なし



2020

- ブンデスリーガ独占放送権・配信権獲得に加え、パートナーシップ契約を締結



2021

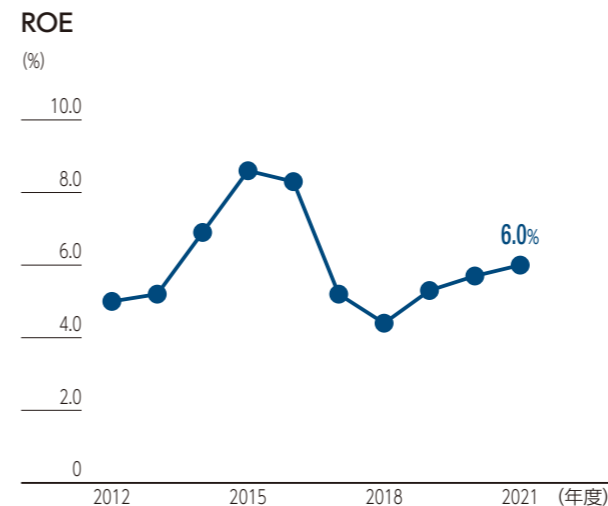
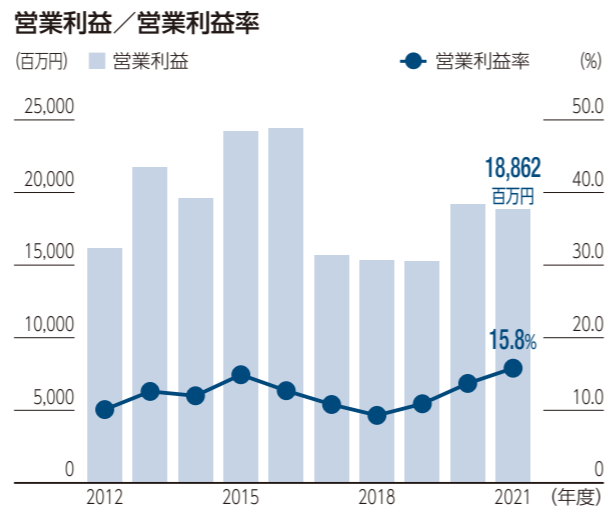
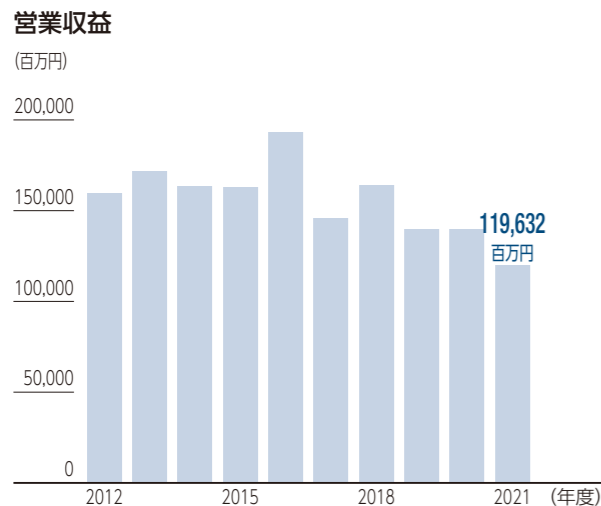
- 「SPOOX」サービス提供開始



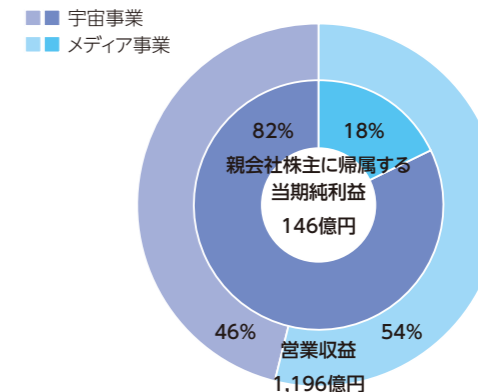
- 「スカパー!番組配信」開始

スカパーJSATホールディングス連結財務情報

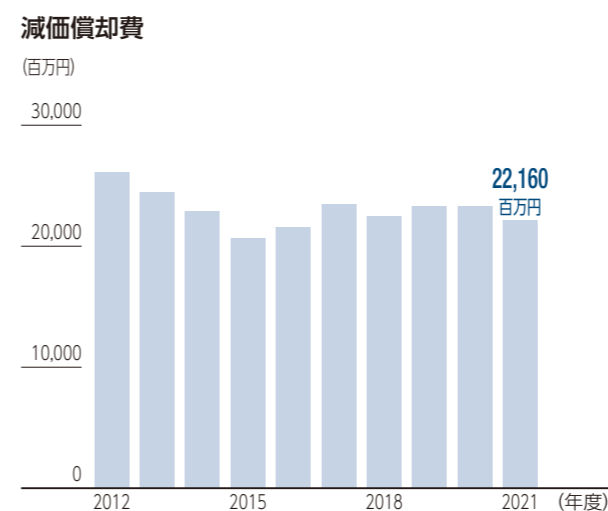
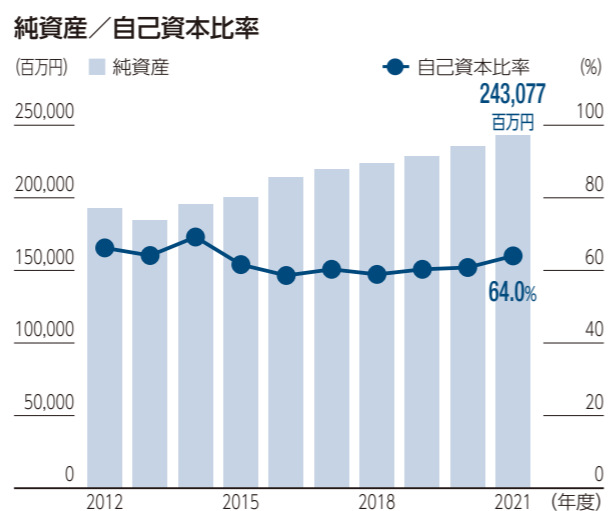
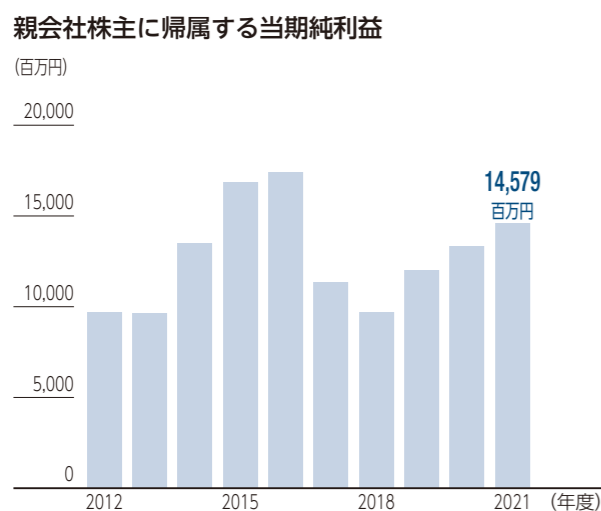
連結業績



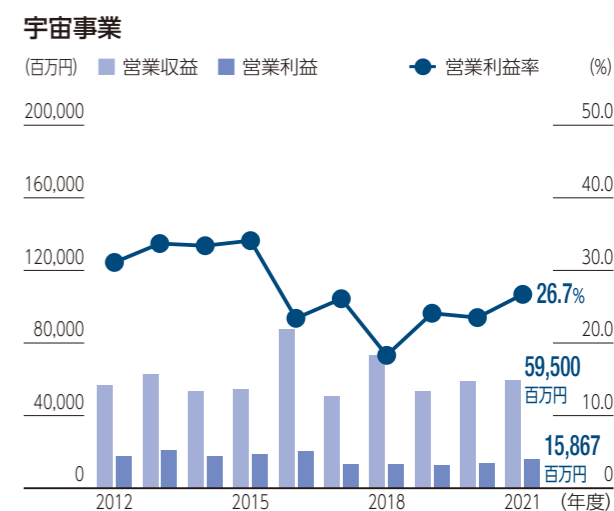
営業収益・当期純利益(セグメント別構成比)



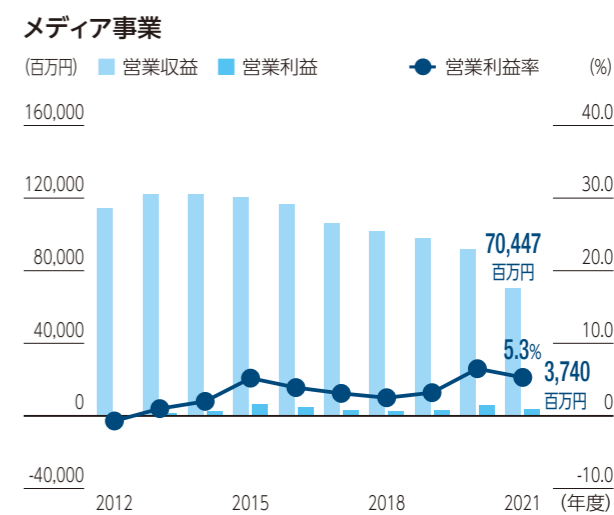
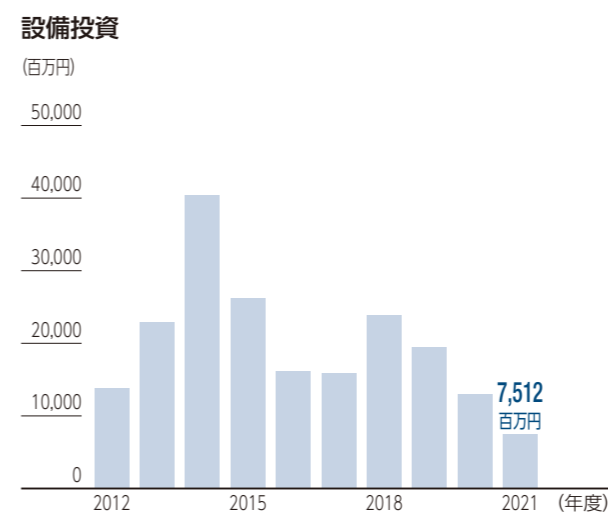
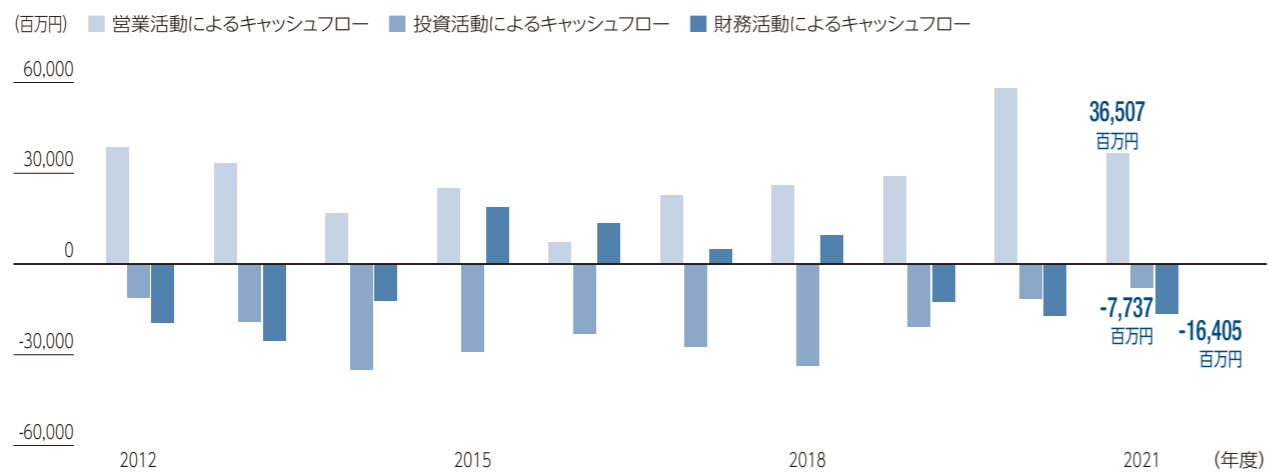
※営業収益、親会社株主に帰属する当期純利益の構成比は、セグメント間の取引および調整額を含んで算出しています。



セグメント別業績



営業活動、投資活動、財務活動によるキャッシュフロー



スカパー!加入件数

301 万件

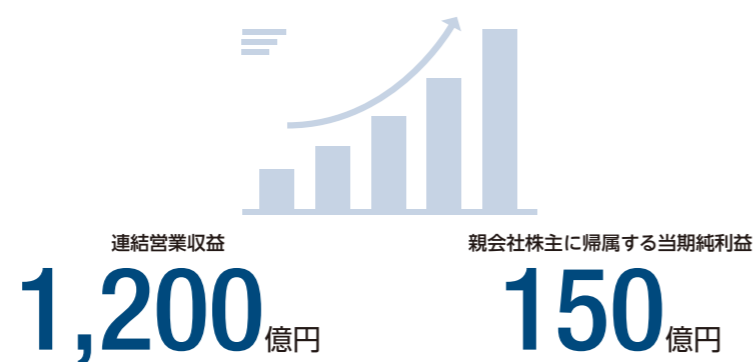
衛星保有数

16 機

2021年度連結業績実績



2022年度連結業績予想



従業員データ

(スカパーJSAT株式会社単体)

正社員数
726 名

勤続年数
16.2 年

育児休業復職率
100 %

障がい者雇用率
3.0 %

女性管理職比率
10.6 %

年休取得率
58.5 %

会社概要

持株会社



株式会社スカパーJSATホールディングス

- 住所 〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目8番1号
- 電話番号 03-5571-1500(代表)
- 設立 2007年4月2日
- 資本金 10,081百万円

代表取締役社長	米倉 英一
代表取締役	福岡 徹
取締役	小川 正人
取締役	松谷 浩一
取締役(非常勤)	中谷 巖
取締役(非常勤)	藤原 洋
取締役(非常勤)	大賀 公子
取締役(非常勤)	清水 賢治
取締役(非常勤)	於保 浩之
監査役	大江 淳彦
監査役	小川 晃
監査役(非常勤)	高橋 勉
監査役(非常勤)	大友 淳

事業会社



スカパーJSAT株式会社

- 住所 〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目8番1号
- 電話番号 03-5571-7800(代表)
- 設立 1994年11月10日
- 資本金 50,083百万円
- 拠点
 - スカパー東京メディアセンター (東京都江東区)
 - 横浜衛星管制センター (神奈川県横浜市)
 - 茨城ネットワーク管制センター (茨城県常陸大宮市)
 - 山口ネットワーク管制センター (山口県山口市)
 - スカパーJSAT豊洲センター (東京都江東区)
 - 群馬テレポートセンター (群馬県北群馬郡)
 - 北海道ネットワーク管制センター (北海道千歳市)
 - 沖縄ネットワーク管制センター (沖縄県糸満市)
 - シンガポール支店
 - 香港支店
 - ジャカルタ駐在事務所

代表取締役 執行役員社長	米倉 英一
代表取締役 執行役員副社長	福岡 徹
取締役 執行役員専務	小川 正人
取締役 執行役員常務	松谷 浩一
監査役	大江 淳彦
監査役	小川 晃

主なグループ会社

■ 宇宙事業 ■ メディア事業

株式会社スカパーJSATホールディングス

